

認知症になっても だいじょうぶな長野へ

～希望大使とともにみんなでアクション!～

令和6年12月7日(土)
長野ターミナル会館 国際ホール

目次

- ・目次、本日のプログラム -----
- ・登壇者紹介 春原 治子さん -----
- 藤田 和子さん -----
- 坂口 一延さん -----
- ・「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」について -----
- ・認知症の人本人からの発信 -----

本日のプログラム(予定)

時間	内容
13:00	ごあいさつ 厚生労働省老健局 認知症総合戦略企画官 遠坂 佳将 長野県健康福祉部介護支援課長 今井 政文
13:10-13:55	第1部 本人座談会
13:55-14:05	休憩
14:05-14:50	第2部 ディスカッション 『一足先に認知症になった私たちとともに皆で考えよう』
14:50	まとめ

長野県在住 80歳
教職を定年退職後、地域の住民組織、特養、JA、行政等でおこなう地域づくりセミナーを受講。地域の仲間と共に、「認知症になっても大丈夫」な地域づくりに参加。その間、民生児童委員、放課後児童クラブ、特養、高齢者サロンなどでボランティア活動に携わる。73歳 アルツハイマー型認知症を公表。認知症とともに自分らしく、暮らすためには、「学び合いと地域づくりが大切」と地域に出向いて活動している。2020年から認知症本人大使「希望大使」(全国版)。



春原 治子
すのはら はるこ

認知症になっても元気に暮らすために、地域みんなで認知症を正しく理解し、認知症の人の理解を深めましょう。なる前からの地域活動参加や仲間づくりが大事です。そしてもしも診断されたら、閉じこもらない事。オレンジサロンのような当事者の会に参加して仲間と楽しく語り合しましょう。

わたしの日々の暮らし

毎日のウォーキングで体力づくり&ご近所さんと交流



忘れる事への対策。朝のスタートが決まると一日がスムーズ!



認知症になる前から地域活動を共に20年。
櫻井 記子さん(ローマンうえだ前施設長)

地域交流サロン

誰もが安心して暮らすための地域みんなの拠り所「hinata boccoとよさと」食事や交流、オレンジサロン、認知症相談、子ども食堂、介護予防教室等の開催。デマンド交通運営。



地元公民館サロン

毎月開催 お互いを良く知る近所のなじみの方々が集う。特養に入所してもここに来てコーヒーを飲みながら懐かしい話が出来ます。包括や特養、社協、公民館とも連携しています。



地域づくりをともに

「安心の地域づくりを住民の手で」を目標に、認知症当事者も参加して、全6日間、毎年開催。本人も体験を発信、グループワークでは、住民が当事者と共に、地域で何が出来るか考えます。



認知症への備え地域サロン



仲間同士の集いオレンジサロン



海外の皆さんとも交流



鳥取県在住、63歳。
看護師として働いていた45歳の時、若年性アルツハイマー病と診断される。
「認知症になってからも自分らしく暮らせる地域にしたい、そんな地域をつくりたい」と考え、地元で活動を続けてきた。これからもその活動の輪を広げていくために、全国各地で「認知症とともに生きる希望宣言」を伝え、その地域の本人たちが前向きに生き、仲間をつくり、社会に参加していくことの後押しをしている。2020年から認知症本人大使「希望大使」(全国版)。



藤田和子
ふじた かずこ

長野県在住、58歳。
長野県のメーカーに在職中、56歳のときアルツハイマー病を発症して会社から休職を勧められる。
その後、家で過ごす日々が続いたが、妻が進める丹野さんの書籍を読み自分もなにか活動したいとリハビリする。
丹野さんに会いたいと仙台まで行き、丹野さんの活動を長野でもやってみたく、2023年活動を開始する。
おれんじドアながの 代表。



坂口 一延
さかぐち かずのぶ

診断されたあと、落ち込むこともあるけれど、日々の暮らしをみつめなおして、できることは、自分の意思をもってやりつづけてきました。
新しいことにもチャレンジしながら、自分の可能性を広げてきました。
認知症になってからも、だれもがそんなふうに暮らせる長野をつくっていきましょう！

なってしまったものは仕方がない！ みんなでやりたいことをやっいていこう！
明るく、楽しく過ごす方が良い

わたしの日々の暮らし

私を応援してくれている夫と、ほっと癒してくれる愛犬ココちゃん



毎日続けるからこそ、お化粧もできる！



いつも活動をアシストしてくれる金谷 佳寿子さん(認知症地域支援推進員)

わたしの日々の暮らし

愛犬「あずき」と家で過ごしています



愛娘と一緒に



活動をアシストしてくれる伝田 景光さん(若年性認知症支援コーディネーター)

公民館サロン

「認知症になっても自分らしく暮らし続けていく」ことを地域の人みんなで、考えてみるための集い。



本人ミーティング

地元鳥取市で、市の保健師さん、認知症地域支援推進員、県庁の方々などと、2か月に1度開催。地元企業と製品開発や公共施設のサービスの見直しも行う。



地元のFM「来ました！鳥取の元気人コーナー」で認知症本人ミーティングを生放送！



地元の仲間とともに活動しています



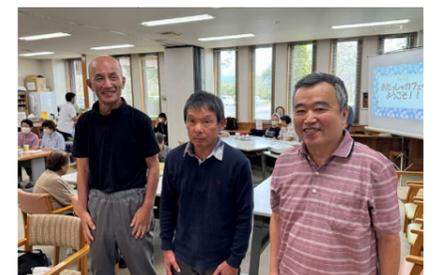
県のピアサポーターとして講演活動(佐久市にて)おなじピアサポーターの渡辺さんと活動中



地元のSBCラジオでアルツハイマー月間の特集番組に本人ミーティングの仲間と出演



「認知症の人と家族の会」の会員交流研修会に参加して宴会を楽しみました



松本市の本人ミーティングの仲間と地区のオレンジカフェでスピーチ

共生社会の実現を推進するための認知症基本法

目的

認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるよう、認知症施策を総合的かつ計画的に推進

⇒認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会(=共生社会)の実現を推進

基本理念

*全ての施策は、①～⑦を基本理念として行う

①全ての認知症の人が**基本的人権を持つ個人として、自らの意思で生活できる**

②国民が、共生社会の実現を推進するために必要な認知症の正しい知識と**認知症の人に関する理解**を深める

③認知症の人にとっての生活上の障壁を除去(**認知症バリアフリー**)

④認知症の人の**意向を十分に尊重**しつつ、良質・適切な保健医療・福祉サービスを提供

⑤認知症の人と家族等が地域で安心して暮らせるための**家族等に対する支援**

⑥**共生社会の実現に資する研究等の推進、社会参加のあり方・社会環境の整備等**

⑦教育、地域づくり、雇用、保健、医療、福祉他、**関連分野における総合的な取組**

認知症施策推進基本計画

◆政府は、**認知症施策推進基本計画**を策定(義務)

*認知症の人及び家族等により構成される関係者会議の**意見を聴く**

◆都道府県・市町村は、**都道府県計画・市町村計画**を策定(努力義務)

*認知症の人及び家族等の**意見を聴く**

※施行後5年を目途とした検討を行う

(「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」条文をもとに作成)

全文は、e-Gov(法令検索)または右のQRコードからご覧ください



「認知症施策推進基本計画」(抄)

III 基本的施策

1. 認知症の人に関する国民の理解の増進等

【施策の目標】

共生社会の実現を推進するための基盤である基本的人権及びその尊重についての理解を推進する。その上で、「新しい認知症観」の普及が促進されるよう、認知症の人が発信することにより、国民一人一人が認知症に関する知識及び認知症の人に関する理解を深めることを目標として、以下の施策を実施する。

(3) 認知症の人に関する理解を深めるための、本人発信を含めた運動の展開

➤ 「認知症とともに生きる希望宣言」の普及等、認知症の人が自らの言葉で語り、認知症になってからも希望を持って前を向いて暮らすことができるよう、認知症本人大使「希望大使」(以下「認知症希望大使」という。)の活動支援を推進する。

認知症本人大使「希望大使」

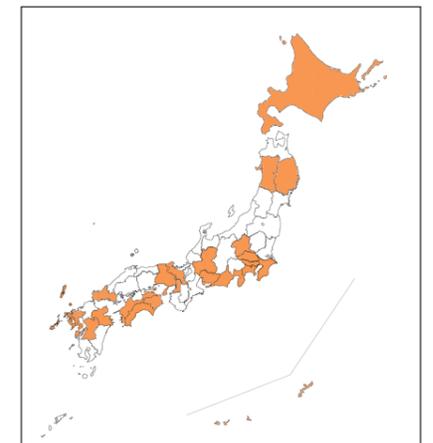
厚生労働省では、これまで7名の方を「**認知症希望大使**」として任命し、**認知症の人本人が自らの言葉で語り、認知症になっても希望をもって暮らせる姿等を積極的に発信**しています。また、「**認知症希望大使**」には、国が行う認知症の普及啓発活動や意見交換会、国際的な会合への参加・協力をいただいています。

◆7名の「**希望大使**」(令和2年～丹野智文さん、藤田和子さん、柿下秋男さん、春原治子さん、渡邊康平さん、令和6年～鈴木貴美江さん、戸上守さん)を任命。

◆都道府県において、令和2年度以降、**24都道府県、74名の地域版の希望大使**を任命。(令和6年9月末現在)



令和6年2月29日開催
(認知症希望大使と厚生労働省職員との意見交換会より)



地域版希望大使を任命している都道府県

本イベントは、厚生労働省が行う、令和6年度「**認知症普及啓発事業広報一式**」事業の一環として、厚生労働省、長野県、(一社)日本認知症本人ワーキンググループの共催にて実施いたします。

共催 厚生労働省、長野県、一般社団法人日本認知症本人ワーキンググループ

